

2024 年 5 月 10 日

各位

理 工 学 部 長 池内 淳子
融合科学研究所長 長島 健

融合科学研究所 研究課題（チーム）の公募

融合科学研究所では、先生方の研究が継続され、さらに発展することを目的として、融合研究のプラットフォームとして、研究課題（チーム）の公募を毎年行っております。現在では9件の課題が登録され、研究が実施されています。

先生方におかれましては、通常業務に加え、授業・研究の実施、さらに学生へのケアなど、休む間もなくご対応されながら、研究を進められているところと存じます。研究チームを組み、先生方の各ご専門における優れた知見を持ち寄ることで、より発展的な研究にスムーズに着手できることが期待されます。また、研究チームへの参加は第Ⅰ期中期目標・計画にある「次代を見据えた社会の要請に応える研究の推進・強化」への貢献といった先生方のご業績にもつながります。

下記の通り、研究課題（チーム）の公募を行いますので、ご一考いただければ幸いです。

記

応募期限： 2024 年 9 月 7 日（土）

提 出 先： （Eメールにて） 融合科学研究所 t-nagash@mpg.setsunan.ac.jp および
TANAKA.Masaki@josho.ac.jp

提 出 物： 研究チーム申請書（様式 添付）

融合科学研究所の目的・組織・研究課題等について

1. 目的

本研究所は、学際融合科学に関する研究を推進し、研究に寄与することを目的に設立された組織で、分野の異なる研究者が共同で研究を行うことができるように、学部・学科を超えた共同研究体制を構築し、分野横断型の特色ある研究を推進している。本学の教員は個々の研究分野において優れた研究成果を発信しており、他分野の教員と融合可能な数多くの研究シーズを保持している。本研究所では、これらの融合可能な研究シーズを持ち寄り、融合研究を円滑に促進するいわゆるプラットフォームとしての機能と役割を果たすとともに、融合研究により次世代の課題に対応することを目的としている。それゆえ、すでに実施している融合研究のみならず、将来融合可能と考えられる研究の推進も本研究所が担うところである。さらに、将来的には、研究所への海外客員研究員の招聘や研究成果に基づいた研究者の海外派遣など、本学が目指す国際化、グローバル人材育成を促進できる組織となることも視野に入れている。

2. 組織

(1) 研究組織

理工学部付置の研究所として、以下の組織とする。

研究所長：理工学部長の意見を聴いて学長が申請し、理事長が任命する（1名）。

運営委員会：研究所長、研究部門長、その他、研究所長の推薦に基づき理工学部長が任命した者から構成する。

研究代表者（チームリーダー）：特定の研究課題において、研究課題を統括する本学教員（研究課題毎に1名）

共同研究者：特定の研究課題において、研究代表者（チームリーダー）のもと、実際に研究を分担する本学の教員。ただし、他機関の教員等に代えることができる。また、必要に応じて、他機関の教員等および本学大学院博士後期課程の学生を加えることができる。

(2) 研究課題（研究チーム）

研究所において研究を行おうとするチームリーダーは、予め融合科学研究所長に研究申請書を提出するものとする。融合科学研究所運営委員会は、提出された研究申請書を審議し、研究所において採用すべき研究課題を選定し、理工学部長の承認を得るものとする。採用された課題の有効期間は3年とし、課題認定後3年間の研究実績に基づいて、研究課題の停止、或いは延長（3年間）を決定する。

各課題において、研究内容、研究員など重要な変更がある場合には、融合科学研究所長に変更届けを提出し、了解を得るものとする。

(3) 研究支援組織

研究所運営；研究課題の公募、選定、研究成果の評価などは、融合科学研究所運営委員会が行い、理工学部長の承認を得るものとする。

事務組織；研究所の会計処理ならびに事務処理は理工学部事務室にて行う。

3. 予算

理工学部は、研究所における研究推進のための予算措置は行わない。ただし、必要があると認められる場合には、一定の限度内で、設備・備品購入のための支援を行うことがある。

4. 研究課題の募集と成果の公開

原則として毎年一度研究課題を公募し、融合科学研究所運営委員会において採択の可否を検討する。研究課題は基本的に3年の時限とし、成果によって継続することが可能とする。

研究成果は、基本的に研究を行った研究者が学会などを通じて公表するが、それとは別に研究所としての研究成果をまとめて一年に一度公表する。

(参考) 2023 年採択課題： 別紙